

高校までの英語学習とは まったく違う“SPEC”で 英語が話せる技術者に

技術者にも英語のコミュニケーション力があります必要になっています。ではSPECという独自の英語教育を行っています。英会話授業を4年間行うなど、ユニークなカリキュラムは、今年で導入4年目を迎えます。SPECで学んだ学生たちは、英語はどうついているのでしょうか。



会話重視の 英語カリキュラム

英語でのコミュニケーション力を育てるカリキュラム、それがSPEC(Special Program for English Communication)です。目標は、英語が使える技術者の育成。カリキュラムの内容は会話中心です。英会話の授業は1年から4年まであり、すべてネイティブ・スピーカーである外国人の先生が担当しているのが特徴です。日本人の先生によるTOEIC®(英語力を評価する世界共通テスト)対策の授業も充実しています。

通常の授業以外にも、英語力アップのための環境が用意されています。毎日5限目に開かれ外国人の先生と一緒に会話を楽しめる「英会話力

「エ」と、授業外の時間にパソコンで英語学習ができる「CALL教室」が同じフロアにあり、やればやるほどうまくなります。興味を持ち自主的に勉強しようと思ったら、かなりのレベルまでサポートしてもらえるのです。

モチベーションが アップする環境や きっかけづくり

「きっかけを与えてあげることが大事なんです」というのは、SPEC推進室メンバーの小山政史講師。「外国人教員がいるからいつでも行っていいよ」と言つても、だいたいの学生はいきません。そこでスタンプカードを導入し、それを授業に



月曜から金曜の5限目。インター・ナショナルセンターの一一番大きい教室で開かれる「英会話カフェ」。それぞれのテーブルに外国人教員が着き学生たちと会話。誰でも参加できます

TOEIC® スコア270点アップ

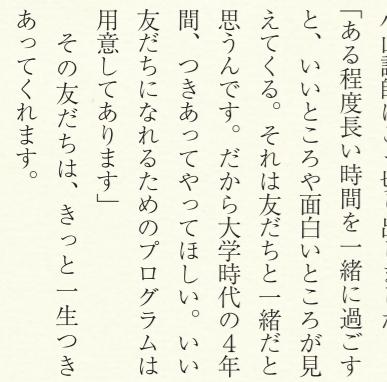
産業ビジネス学科4年生の林有理

「英語力そのもののアップだけでなく、もっと話したいことがあったのに伝えられなかつたので勉強したい、と研修後のモチベーションが非常に上がるんです。他の国の学生との交流も生まれますし、海外で暮らしたという経験は大きいですね」

沙さんは、現在就職活動の真っ最中。「航空系か旅行系のバリバリ英語を使う仕事がしたいんです」という彼女、実は3年生になるまでは英語が苦手でした。英語を勉強し始めたきっかけはお母さん。

「母がフェイスブックでフィリピンの友人とメッセージのやりとりをしていて、その中で私のことを書いてくれてたんです。でもすべて英語だったので私は読めなくて、友だちに訳してもらつたら、その内容に感動しました。それで自分でも読めるようになりたいと強く思つたからです」

それが3年生の時でした。林さんの意欲に先生たちが応えました。外国人の先生にお願いして、1対1で会話の練習をさせてもらいました。TOEIC®の点数向上も目標にし、



OPEN CAMPUS

8/6㊁ 9/11㊁ 10/8㊁・9㊁



産業ビジネス学科 地域共生ビジネスコース4年 林有理沙さん。富山県出身



海外語学研修。4週間の研修中には、地元の保育園児との交流もあります



英会話カフェのスタンプカード。
授業で学んだ英語で話せた証。
学生に自信を持たせます



基盤教育機構SPEC推進室メンバー
小山政史講師。TOEIC®対策の授業
を担当